

Contents

P 2-3 「多文化共生とは」 P 4-5 「FUNN加盟団体インタビュー」 P 6 「インター活動レポート・FUNN活動レポート」 P 7 「イベント情報」



今回はNPO法人トゥマンハティふくおかの代表理事の弥栄睦子さんに、寄稿いただきました。インドネシアの留学生をはじめとした在住外国人支援の活動例とともに、皆さんも一緒に多文化共生について考えてみませんか。

今や、日本に住む外国人は、経済発展の一翼を担う労働者として、また地域社会の構成員として、日本にとって大切な人材であり、ともに働き、ともに暮らす多文化共生社会の実現が望まれています。

…

出入国在留管理庁の発表によると2020年6月末現在での在留外国人は約288万6千人。在留資格別では永住者が約80万人と最も多く、次いで技能実習生が約40万2千人となっています。

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうしながら、地域社会の構成員として共に生きていいくこと（総務省）

多文化共生とは……

多文化共生とは

多文化共生が明確に示されたのは2006年3月総務省が作成した「多文化共生の推進に関する研究会報告書」地域における多文化共生の推進に向けて」である。同年12月には外国人労働者問題関係省庁連絡会議で「『生活者としての外国人』に関する総合的対応策」が取りまとめられ、その中には「外国人と地域社会との間には、言葉や習慣等の違いから、軋轢、摩擦が生じている場合が少くない。また、不安定な雇用等の労働環境から、生活が十分に安定しているとは言い難い状況もある。さらに、不就学や日本語学習が困難等の外国人の子どもの教育の問題は、その子どもの将来を考えた場合に大きな問題となることが想定される。我が国としても、日本で働き、また、生活する外国人について、その待遇、生活環境等について一定の責任を負うべきものであり、社会の一員として日本人と同様の公共サービスを享受し生活できるような環境を整備しなければならぬ」と書かれている。この指針に基づき、各地方公共団体では日本語教室、外国語による情報提供（防災関連含む）、外国人相談窓口の設置、外国人にルーツを持つ子どもの学習支援などに取り組んできた。

福岡市の在住外国人は2019年12月末時点で約3万9千名、福岡市人口約155万4千名のうちの2パーセントを占める。国籍は中国、韓国ま

福岡市の地域国際化支援

2014年との比較ではベトナム人が317%、ネパール人が184%の増加となつて。福岡市の多文化共生推進は、従来より公益財団法人福岡よかトピア国際交流財団が中心となり「市民の国際交流を促進する事業」「在住外国人及び外国人学生を支援する事業」等を通してけん引役を担つてきた。2019年4月に「地域共生コーディネータ」が設置され、よかトピア国際交流財団は市と連携して、公民館や校区への通訳や外国人講師の紹介、さまざまな文化交流会の企画サポートなど「地域の国際交流」に力を入れている。

トゥマンハティふくおかの活動

当会でも2003年の任意団体設立以来、インドネシアの留学生と共に、福岡市民とインドネシアの交流を深めるさまざまな活動を行つてきた。インドネシアカルチャー・ティ、料理交流会、伝統竹楽器による演奏活動、博多どんたく港まつりでのパレードなど、日本人とインドネシア人が交流する機会を提供。留学生だけでなく、EPA看護師・介護福祉士候補者、技能実習生も参加し、彼らが母語で話す、母国の料理を楽しむ場にもなつて。2014年NPO法人になってからは多文化共生の推進も活動の大きな柱の一つに掲げ、福岡アジア都市研究所の市民研究員として「ムスリムの人も気軽に訪れ、ともに暮らせる街づくりに向けた研究」発表、職業性ストレス簡易調査票(57項目)多言語化事業、福岡在住外国人「特別定額給付金」申請手続き等サポート事業など、印度ネシアに縛られない活動を展開している。



堅粕公民館 留学生とのふれあい交流



玉川公民館 料理交流会



南区役所(横手校区)居住外国人防災サポート養成講座



箱崎公民館 町歩きボランティア養成講座

よかトピア国際交流財団の取り組み

「在住外国人及び外国人学生を支援する事業」のうち、「地域の国際交流」分野での支援メニュー

- ・通訳・翻訳
- ・講師紹介
- ・日常生活アドバイス
- ・外国人学生を活用した相互理解の講演
- ・地域行事企画サポート
- ・情報提供



日本人と外国人の壁をなくすには

これまでの各地方公共団体の積極的な取り組みで行政の外国人受け入れインフラ整備や日本人側の「地域に異文化を知り、違いを認め合う」土壤づくりは整ってきたと感じている。しかしながら「対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく」には外国人との間にある気持ちの垣根をなくし、外国人側からの積極的な参加が求められる。

そのためには、その国の文化などをよく理解している日本人（NGOや友好協会、国際交流団体等）が彼らに手を差し伸べ、メンター的な役割を持ち、地域と結び付けていくことが大事だと感じている。

特定技能登録支援機関とNGOの連携

2018年12月、外国人労働者の受け入れを拡大する改正出入国管理法が成立し、新たな在留資格として「特定技能1号」と「特定技能2号」が創設され、14の業種で単純労働を含めて就労することが認められた。特定技能外国人の受け入れにあたっては、受け入れ機関（企業）に10項目の支援計画が義務付けられた。そのなかには、日本語学習の機会の提供や日本人との交流促進に係る支援などが盛り込まれ、入国から出国まで、地域や日本語ボランティアなどと連携しながら彼らを支援していくことが求められている。

これを受けて当会は、2020年10月10日、特

定技能外国人の受け入れを実務サポートする特定技能登録支援機関と社会保険労務士、日本語教師、産業カウンセラー等で第1回目の技能実習生支援のための勉強会を開き、連携の可能性を探った。そして今、特定技能登録支援機関と積極的にタイアップし、海外の送り出し機関への同行（現地スタッフの活用）、オリエンテーション等での通訳、日本語の学習支援（日本語パートナーズ卒業生の活用、Zoom等での対応等）、精神的なサポート（産業カウンセラー）のほか、当会が主催する日本人との交流イベントや地域行事への誘い等、当会の強みをフルに生かし、一貫したサポートができないか検討中である。NGOと各専門家、地域とのチームで外国人労働者支援のモデルを作ることができれば、今後、送り出し機関も優秀な人材を安心して送り出すことができ、受け入れ機関も外国人労働者たちが安心して働ける環境を提供できるのではないかと考えている。

多文化共生社会＝国際社会

SDGs（持続可能な開発目標）の「包摶的かつ持続可能な経済成長、すべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用及びディーセント・ワークを促進する」「各国内及び各国間の不平等を是正する」とことにつながっていくものである。世界中の誰もが、民族・宗教・文化の違いを理解し、「国際社会」が早く訪れるることを願っている。

特定技能外国人の支援計画（出入国管理庁資料より）



技能実習生支援のための勉強会



ハラル・レストランで茶道教室の打ち合わせ

加盟団体インタビュー



こども公衆衛生教育

モザンビークのいのちをつなぐ会は、モザンビーク人有志とともにモザンビーク共和国の貧困層の生活の質向上に取り組んでいます。今回は代表の榎本さんにお話を聞きしました。

団体設立のきっかけ

日系企業のモザンビークでの新規事業立ち上げを手伝ったために2012年に初めてモザンビークで仕事をしました。それまでアジアの発展途上エリアでの仕事は経験していたのですが、先進国からの投資が巨額であるにも関わらず、貧困層の人々の暮らししがなおざりにされている状況があります。その先進国の開発及び支援の理屈やプロセスと、途上国の住民の「一ズ

活動地域であるカーボ・デルガード州は首都から一番離れている地域ということもあり開発が進んでおらず教育レベルが特に低いため、スマラムの学舎・寺子屋の建設、そこでの教育活動、井戸やトイレの建設、2017年からの美化活動に加えて国際相互理解推進運動など、教育環境、農業、公衆衛生、国際文化交流活動を行ってきました。

今までの活動

活動地域であるカーボ・デルガード州は首都から一番離れている地域ということもあり開発が進んでおらず教育レベルが特に低いため、スマラムの学舎・寺子屋の建設、そこでの教育活動、井戸やトイレの建設、2017年からの美化活動に加えて国際相互理解推進運動など、教育環境、農業、公衆衛生、国際文化交流活動を行ってきました。

新型コロナウイルスが世界的に流行している現在、「コロナ対策」としては教育活動の一環である寺子屋での活動の人数を分散させたりして、密にならないように気をつけています。しかし一番の問題はテロの激化により食糧難に陥っていることです。テロは「コロナよりも直接的に命に関わるので最も大きな懸念事項です。短・中期的には公衆衛生活動と食糧配布活動の継続、平和教育の始動などを考えています。現地では子供や青年たちがテロリストに雇われてテロに加担していることもあります。現地では子供や青年たちがテロリストに雇われてテロに加担していることもあり、当団体の活動を通じて「平和」「宗教」思いやりについて教育する必要があると感じているからです。最終的には私たちはいなくなつても現地の人々が自分たちで仕事を始めて心身ともに辛かつた頃に、モザンビーク人に言われた「ここでは強くないと生きていけない」という言葉を常に思い返すようになります。問題が山積しつづけになつても、この言葉を反芻して乗り越えてきました。

活動の中で嬉しかったことや気をつけていること

病気になつたり不當な扱いを受けたりして心が折れそつた時でも、一緒に活動してきた現地の青年たちが目を輝かせながら望むべき未来を語る姿を見たり、子供たちの新たな可能性に気がつくことがあります。モザンビーク人には「強くあることはとても重要だと考えています。モザンビークで仕事を始めて心身ともに辛かつた頃に、モザンビーク人に言われた「ここでは強くないと生きていけない」という言葉を常に思い返すようになります。問題が山積しつづけになつても、この言葉を反芻して乗り越えてきました。

一般社団法人 モザンビークのいのちをつなぐ会

FUNNに加盟するメリット 期待すること

め、モザンビークの人々に平和意識や愛国心、道徳心を学ばせてきた民族言語に代わる「平和教育」が必要なのです。



寺子屋スクール交流

榎本さんが考える「平和教育」

私たちが必要だと考へているのはモザンビークの内戦を経験していない世代に対する道徳教育です。今まで民族言語を通じて道徳教育が行われていました。ポルトガル語と併用されてきた民族独自の言語には民族の文化や誇りや道徳が含まれているからです。しかし若い世代には民族の言葉を話せない子供もいて、内戦を経験した世代との意識の差が顕著です。そのため、モザンビークのいのちをつなぐ会は首都に活動拠点を置いておらずネットワークを形成していくため、FUNNに加盟することによって、FUNNに加盟している企業も多く、ポータルサイトに載っていない助成金情報を探すことなどが難しいので、見つけにくい助成金情報を収集して発信して欲しいと思っています。ただ、FUNNに加盟している今も縦つながりや横つながりが不足していることは大きな課題です。だからこそ、国際NGOや大きな団体さんとのネットワークを提供していただきたいです。



ベンハ環境美化活動



寺子屋演劇ワークショップ

取材・文：藤丸令奈（FUNNインターナンス）

一般社団法人 モザンビークの いのちをつなぐ会

〒800-0233

福岡県北九州市小倉南区朽網西3-12-6

TEL : 093-472-1444 / FAX : 093-472-1444

E-mail : may@tsunagukai.com

特定非営利活動法人ソルト・パヤタス



スタディーツアーの様子

設立から現在までの支援活動の広がり
フィリピンのスタディーサーで出会った2人の女性がパヤタスでの幼稚園建設
援事業、スタディーサーなどを通じた啓発事業を行っています。

ソルト・パヤタスはどんな団体
今回はソルト・パヤタス事務局長で、自身も学生時代ソルト・パヤタスのスタッフとしてソーラーへ参加経験もある井上広之さんにお話をお聞きしました。

今回はソルト・パヤタス事務局長で、自身も学生時代ソルト・パヤタスのスタッフ一員として参加経験もある井上広之さんにお話を伺いました。

山崩落事故を契機に、母親が将来的に学費を捻出できるよう、「三拾いにかわる仕事を提供するため女性の収入向上支援が本格的に始まりました。その後、子どもたちの生活改善のための意識や能力を高めることを目的としたライフスキル教育（日常生活に生じるさまざまな問題や要求に対応して、より建設的かつ効果的に対処するために必要な能力）」のこと（※WHOによる⑥）という新しい教育支援の形が見いだされ、2010年には地域図書館の運営が始まり、絵本の読み聞かせや親子で参加できるワーク

1995年の団体設立当初は奨学金支援が中心で、経済的な理由で学校に行ききれない子どもたちに対しても日本で集めた寄付や会費を子どもたちが学校に通うための費用として支援していました。しかし奨学生支援をしていく中で保護者たちから「母親に仕事の機会がない」という声が出てきたため、1999年頃から子どもを持つ母親への支援準備が行われるようになります。

に参加後、その卒園生が学費を出せらず進学ができないことを知り、19人の子どもたちが学校へ行けるよう支援を始めた。それがソルト・ペヤタス設立のきっかけです。その後マニラに滞在する駐在員や日本の学生や支援者の方からの支援を受けながら、これまで活動が継続してきました。



女性収入向上事業の様子

費支援に加えて子どもたちが学校に継続的に通けるように働きかける支援が行われるようになるなど当初の支援の在り方が見直され、2015年からはライフスキル教育の調査事業も始まっています。また、啓発事業としてスタディーツアーや大学などの講義を実施し、日本の人々が学ぶ機会を提供しています。

ライラスギル教育とは？

学び続ける力を総称して「ライフスキル」と定義し、貧困に直面している子どもたちに身につけてもらつ活動をしています。しかしやりぬく力や自尊心、自己肯定感を身につけるための手法は確立されておらず、図書館の運営や読み聞かせ、お絵かきのワークショップが本当にライフスキルの向上にどれだけ効果があるかはまだ正確には分かっていません。そのため、日本の大学の研究機関と連携して、ライフスキル教育の調査研究事業を行い、今もなお試行錯誤を繰り返しています。

費支援に加えて子どもたちが学校に継続的に通けるように働きかける支援が行われるようになるなど、当初の支援の在り方が見直され、2015年からはライフスキル教育の調査研究事業も始まっています。また、啓発事業としてスタディーツアーや大学などの講義を実施し、日本の人々が学ぶ機会を提供しています。

今後の組織運営について

現在、現地には日本人がいない状況が続いている。現地のフィリピン人スタッフと上手くコミュニケーションを取りながら活動を続けています。最終的には専門家の協力を得ながら、現地の人々だけで運営できるようになることが理想ではありますが、日本人の目で現地の様子を知ることが難しい。という課題もあります。また、「ロナ」の影響で事業収入が見込めないため、日本だけでなくフリーピンでも資金調達が可能になるように模索する必要があります。今後新たな活動については、地域のスタッフや人々と参加者を

W i t h 「ロナ」の時代の
今後の組織運営について
してもいいならなど、パイプ役の機能
も果たしてくれています。

取材・文：川端優花（FUNNY
ンターン）

繋ぎ 映像を通して現地の様子を
体験してもらえるような、バーチ
ャルを利用したスタディツアーアー
を計画しています。

FUNNに加盟するメリット

中小団体が必要としている情報が整理されて発信されているので分かりやすいです。ネットワークを通じて助成金やイベントなどの情報を得ることができます。そのなかでも福岡や九州に特化した情報が手に入るところがメリットです。また福岡の大学の講義情報を紹介してもらい講演を行ったり、インターのボランティアを希望する学生をFUNNを通して紹介



図書館での絵本の読み聞かせの様子



井上広之さん

特定非営利活動法人
ソルト・パヤタス

811-2405

福岡県糟屋郡篠栗町篠栗3686-1

TEL : 092-980-1172/FAX : 092-980-2036

E-mail : contact@saltpayatas.com

大学生インターンの受け入れを行いました

川端 優花

私にとってFUNNでの活動は毎日が新しい出会いや刺激の連続で今日はどんな発見があるんだろう?とても充実した日々を過ごすことができました。ときどきもありましたが、FUNNで得た出会いや刺激、またこれまで知らなかつた世界を知ることは、私の国際協力に対するイメージをガラリと変えました。またソルト・パヤタスさんへのインタビューでは「子どもたちにとって夢を追い続けることを支える存在でありたい。」という井上さんの想いにとても感銘を受け、自分の生き方について考えるきっかけになつたと同時に、1歩先の新しい教育支援の在り方を学ぶことができました。

藤丸 令奈

FUNNでの経験を通して得た多くの学びやその姿勢を、今後の大学生活や将来に生かしていきたいと思います。

興味」というより「国際協力への好奇心」という表現の方が適切だったよう思います。将来どんな職につくことになつても今回FUNNで学んだことを忘れずに生かすことができる良いなと思いました。

坂井 晴香

NGOで働くには社会人としてのPCスキルやマナー、支援国に関する知識や他のNGO団体についてなど、多くの知識が必要であることがわかりました。FUNNさんはNGO団体の中間支援団体として、加盟団体と支援者の両者に求められることに応える努力されている姿が印象的でした。また、オンライン講座にインターン生として参加させていただいた際、NGOやNPO団体は、利益を最重視しない分、人とのつながりを大事にして仕事をされていることがよく伝わってきました。NGOやNPOの方々の知識の豊富さや相手に寄り添う態度から、私もこれからたくさん勉強して知識を身に着け、相手に温かく接することができるようになりたいと思いました。

私はまだ自分の将来に明確なイメージを持つておらず、今回のインターンは就職を見据えたものではなかつたのですが、よく耳にする「国際協力」というものを身を持って学び、自分の視野を広げる絶好的な機会だと考え参加しました。活動を通して今まで自分が全く意識してこなかつた数々のことについて調べたり考えたりする機会に巡り合いました。加盟団体さんへのインタビューでは、下調べを行つた上で質問事項を考えインタビューさせていただきました。FUNNでのインターンは一つ一つの経験値が大きく非常に充実した時間を過ごすことができました。今思えば私の参加動機は「国際協力への



左から、川端さん、藤丸さん、坂井さん

【九州地域NGO活動助成金】 助成団体が決定しました

団体名 / 実施事業名
特定非営利活動法人 ISAPH 「食用昆虫を育てる農地の整備(with コロナ時代の遠隔管理体制の導入)」
特定非営利活動法人 地球市民の会 「ミャンマーコーヒーファンづくり~国際協力をもっと身近に」
NPO 法人トウマンハティふくおか 「マタケン学校/オンライン日本語ボランティア講座整備事業」
芭蕉織維研究会 「ミャンマーにおける糸芭蕉の栽培及び芭蕉織維の回収・利用事業準備」
特定非営利活動法人 バングラデシュと手をつなぐ会 「テレワークのための環境整備事業」
一般社団法人 モザンビークのいのちをつなぐ会 「モザンビーク共和国パンバのスマラム地区におけるテロ被災者支援活動」



リモートでの審査会の様子

となりました。これまでにが宗教法人真如苑との協働で実施している【九州地域NGO活動助成金】。2020年度は7団体からの応募があり、10月10日に半公開式で行われた外部有識者等による選考審査会の結果、6団体の事業が採択されました。今年度の審査会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、会場へ足を運ばない、リモートでの参加が可能であることを周知したところ、ほとんどの参加者がオンライン会議ツールを通じての参加をするこ

この助成金プログラムは、九州のNGOを育て応援するという趣旨で、まだ法人格を得ていない団体も申請可能です。「初めてのNGOを育てる」といった応募前の準備段階から採択後の事業実施にかかる相談までFUNNスタッフが応じてサポートしています。

Event Information

FUNN周辺の"耳より"イベント情報



PP21ふくおか自由学校

2020連続企画「社会に希望の種をまく〜いのち危ういこのクニで」

☆Volume 7 「ふくおか自由学校30周年記念 豊田勇造ライブ in 福岡」

ボブ・ディラン、ブルースにインスピアイされ、関西フォーク創世紀から一貫してメッセージソングを歌い続ける。時代を見据えた歌づくりと、高度なギターテクニックで独自のスタイルを確立。旅と出会いが歌を生み、各地に熱烈なファンを獲得。2019年7月には京都の円山音楽堂で「70歳記念70曲リーコンサート」を実施。年間100回以上の全国ツアーを継続中。最新CDは『夢を見て旅に住む』。

日程：11月14日（土）[15:30開場]16:00開演

会場：Juke Joint(ジューク・ジョイント
Tel. 092-762-5596)

天神から徒歩8分 親不孝通り近く 福岡市中央区舞鶴1-9-23エステートモア舞鶴2F

出演：豊田勇造（とよだ・ゆうぞう）さん

参加費：2,500円+1ドリンク要オーダー

☆Volume 8 「いま、人権とは何か？！～この社会を生き抜くために」

いま日本では「格差」が広がっています。自由に選ぶことは出来ず、競争の結果は自己責任とされます。コロナ危機ではそれが益々明らかになりました。生きていく権利はどうすれば実現するでしょうか。人権や自由、民主主義など、人類が多年の努力を重ねて闘い取ってきたものの大切さを、「闘う憲法学者」横田耕一さんとともに考えます。

日時：12月5日（土）

会場：あいれふ研修室A（福岡市中央区舞鶴2-5-1あいれふ9F 「赤坂駅」下車）

問題提起：横田耕一さん / 定員：27名

問合・予約 ohyamayairochou@yahoo.co.jp

電話：090-4357-7596（藤岡）、
080-6406-9251（大山）

<http://fukuokafreeschool.web.fc2.com/>

30周年記念誌 販売開始のご案内

今年30周年を迎えたPP21ふくおか自由

学校では、記念誌を作成しました。なぜ自由学校を続けてきたのか、自由学校で何を伝えようとしてきたのか。それが分かるように、これまで行ってきた人権や平和のテーマにした講座や映画、ライブ、スタディツアーカーの一部をまとめ直しました。

「座談会」は、自由学校の醸し出す魅力とスタッフの本音が垣間見えて必読でしょう。最後の年表では、この30年の世界や日本の出来事とそれに対する市民の動きに、ふくおか自由学校の取り組みをリンクさせてみました。この記念誌が、現在そして将来にわたる世代に、真の「自由」の実現のために何が必要か、それを考えるための材料になれば幸いです。

郵送を希望される場合はご連絡ください。開催中の講座でも販売しています。できれば周りの人にも広げていってください。コロナ禍で市民運動の集会もめっきり減ってしまい内向きになりそうな雰囲気の中で、忘れてはいけないことをこれからも発信し続けていきたいと思います。

A5版64ページ / 販売価格：一冊500円

送料：180円（4冊まで）

問合・予約 ohyamayairochou@yahoo.co.jp

電話：090-4357-7596（藤岡）、
080-6406-9251（大山）

「PP21ふくおか自由学校」
<http://fukuokafreeschool.web.fc2.com/>

NGO福岡ネットワーク

「解決したい気持ちを形に変える」 九州地域のNGO向け組織強化研修報告会

九州地域で活動する国際協力NGO団体が「国際協力の現場でより良い活動を行うために、その障壁となっている団体自身の現状課題を解決し、団体の組織運営と活動実施の機能が向上すること」を目的とし、集合研修への参加・アクションプランの作成・実施を続けてきました。

このプログラムを通じて、参加団体にどのような変化があったか、どのような成果が生まれたかを各団体より発表していただく報告会を開催いたします。国際協力分野での活動やNGO/NPO活動にご関心のある方にも聴講いただくことができます。オンラインでの参加も可能です。

開催日時：11/15（日）10:00～17:00

開催場所：リファレンスはかた近代ビル103号室（福岡市博多区博多駅東1丁目1-33はかた近代ビル1F）またはオンライン参加（Zoom）

詳細・お申込み

https://ngofukuoka.net/ngo_kenshu201115/

※このプログラムは、独立行政法人国際協力機構（JICA）のNGO等活動支援事業「NGO等提案型プログラム」を活用し、（特活）NGO福岡ネットワークが企画・運営する研修プログラムです。

【FUNNのFacebook, twitterフォローのお願い】

FUNNの最新情報を随時更新中です、会員団体の皆様のフォローやFUNNの活動の情報拡散へのご協力をお願ひいたします。

■Facebook:

<https://www.facebook.com/FUNN.fukuoka/>

■twitter:

https://twitter.com/FUNN_NGO

メールマガジン配信中
登録はコチラから



【2020年度FUNN会員募集】

FUNNでは活動を継続して支えてくださる会員を募集しています。会員種別の詳しい情報は次のページをご参照ください。

会員申し込みフォームを設置しました。こちらからもお申込みいただけます。

<https://forms.gle/VYnpzQmX9itgHAGC8>



正会員団体 (23団体)

- *(特活)ISAPH
- *アジア開発銀行福岡NGOフォーラム
- *(特活)アジア女性センター
- *(特活)エスペランサ
- *NGO Earth for Children
- *(特活)九州海外協力協会
- *債務と貧困を考えるジュビリー九州
- *佐賀NGOネットワーク
- *JVC九州ネットワーク
- *(特活)じやっど
- *認定NPO法人ソルト・パヤタス
- *認定NPO法人地球市民の会
- *チベットを知る会
- *NPO法人トゥマンハティふくおか
- *国際協力NGO NESTEP
- *ネパール歯科医療協力会(ADCN)
- *芭蕉繊維研究会
- *(特活)バングラデシュと手をつなぐ会
- *PP21ふくおか自由学校
- *福岡YMCA
- *フレンズ国際ワークキャンプ九州
- *(-社)ミドリゼーションプロジェクト
- *モザンビークのいのちをつなぐ会

※2020年9月30日現在

編集後記

今年の9月はインターン生を同時に3人受け入れていたせいか、事務局はだいぶ賑やかな雰囲気でした。コロナウイルスの状況はまだまだ油断できませんが、このまま徐々に状況が改善していき、これまでの同じように活動ができるようになることを期待しています。

【FUNN事務局】

FUNN 応援寄付 募集中！

2020年に、NGO福岡ネットワーク(FUNN)は設立から27年を迎えます。27年前の福岡で、NGO活動に関わる人たちが横のつながりの重要性を感じてFUNNは設立されました。これまで多くの方々のご支援により、福岡や九州を中心としたNGO間や他セクターとのネットワークの構築、地域のNGOや国際協力活動の活性化、市民の国際協力への参加促進等の事業を行ってきました。ご支援いただいております皆さま、本当にありがとうございます。

これからもFUNNは、NGOへのサポートや多様なネットワーク構築等により、地球規模課題の解決を目指していきます。国際協力のこれからを考えること、市民の皆様や他セクターとNGOを繋げることに注力していきます。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ご入会のお願い

NGO福岡ネットワークは、NGOとネットワークを作り、会員団体には組織基盤・活動実施能力向上のための研修・学習会、市民の方々にはNGO活動の内容をお知らせし、ともに考える各種活動を行っております。FUNNでは活動を継続して支えてくださる会員を募集しています。

- ◆正会員 団体 10,000円／1口: FUNNの目的に賛同して入会する団体
- ◆賛助会員 企業 30,000円／1口: FUNNの目的に賛同してそれを支援する企業
- ◆賛助会員 団体 10,000円／1口: FUNNの目的に賛同してそれを支援する団体
- ◆賛助会員 個人 6,000円／1口: FUNNの目的に賛同してそれを支援する個人
- ◆通信会員 3,000円／1口: 機関誌の定期購読のために入会した団体や個人

★会費・寄付の振込先

郵便振替口座名: NGO福岡ネットワーク 口座番号: 01790-7-89478

※入会のお申込みは、下記連絡先までお問い合わせください。

TEL/FAX: 092-405-9870 Email: funn@ngofukuoka.net

【国際協力・NGOに関する相談はNGO相談員へ】

(特活)NGO福岡ネットワークは外務省より「令和2年度 NGO相談員」を受託しました。みなさまからの国際協力・NGOに関する質問にお答えしますのでお気軽にお問合せください。

オンライン相談もOK！

対面でなくオンラインでのご相談も可能です。ウェブサイトのお問い合わせフォームよりご連絡ください。



福岡で活動する国際協力NGOのネットワーク

NGO福岡ネットワーク
FUKUOKA NGO NETWORK (FUNN)

FUNN

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3-6-1 小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぶ」内
TEL/FAX: 092-405-9870 Email: funn@ngofukuoka.net URL: <https://ngofukuoka.net/>

◆◇NGO相談を受け付けています（外務省委嘱）◆◇◆

*火～土 13:00～18:00 *日・月・祝…休み

※事務所を留守にすることがありますので、ご来所の際はお電話くださいと助かります。

※専用駐車場がありませんので、自動車での来所は、ご遠慮ください。

